#### PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 11279657 A (43) Date of publication of application: 12.10.99 AVAILABLE COPY (51) Int. CI C21D 9/48 B21B 3/00 // C22C 38/00 C22C 38/14 C22C 38/16 (21) Application number: 10098200 (71) Applicant: **NIPPON STEEL CORP** (22) Date of filing: 27.03.98 (72) Inventor: TANAHASHI HIROYUKI **SENUMA TAKEHIDE** 

#### (54) PRODUCTION OF HOT ROLLED STEEL SHEET FOR DEEP DRAWING EXCELLENT IN UNIFORMITY OF SHEET THICKNESS

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a steel sheet uniform in the sheet thickness and having high (r) value with high productivity at a low cost by subjecting a steel slab having a specified compsn. composed of C, Si, Mn, P, S, Al, N, Ti, Nb and Fe to specified lubricating hot rolling with a specified work roll and thereafter executing recrystallizing treatment.

SOLUTION: Te slab of a steel having a compsn. contg. one more kinds among, by mass,  $\leq$ 0.01% C,  $\leq$ 2.0% Si,  $\leq$ 3.0% Mn,  $\leq$ 0.2% P,  $\leq$ 0.05% S, 0.005 to 0.1%

Al,  ${\le}0.01\%$  N, 0.001 to 0.2% Ti and 0.001 to 0.2% Nb, furthermore contg. 0.0001 to 0.005% B and moreover contg. 0.01 to 1.5% Cu is hot-rolled. At this time, in at least one pass of the finish rolling, rolling is executed at less than the Ar\_3 transformation point at a draft of  ${\cong}50\%$  while lubricating oil of <450 mm²/S 40°C viscosity is fed at 0.2 to 10 ml/m² water injection with a work roll having  ${\cong}0.05~\mu m$  center line average roughness Ra. This hot rolled sheet is subjected to recrystallizing treatment in a coiling stage or an annealing stage to obtain a hot rolled steel sheet for deep drawing excellent in the uniformity of the sheet thickness.

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

#### (19)日本国特許庁(JP)

# (12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

### 特開平11-279657

(43)公開日 平成11年(1999)10月12日

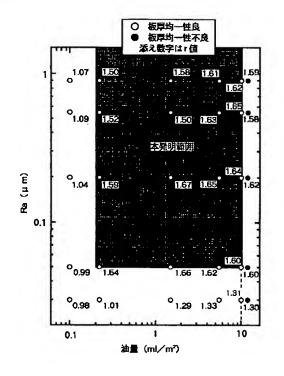
(51) Int.Cl. 6	識別記号	FΙ					
C 2 1 D 9/48 B 2 1 B 3/00		C 2 1 D 9/48 S					
		B 2 1 B 3/00 A					
// C 2 2 C 38/	700 3 0 1	C 2 2 C 38/00 3 0 1 W					
38/	14	38/14					
38/	'16	38/16					
		審査請求 未請求 請求項の数4 FD (全 6 頁)					
(21)出願番号	特願平10-98200	(71)出顧人 000006655					
		新日本製鐵株式会社					
(22)出顧日	平成10年(1998) 3月27日	東京都千代田区大手町2丁目6番3号					
		(72)発明者 棚橋 浩之					
		富津市新富20-1 新日本製鐵株式会社技					
		術開発本部内					
		(72)発明者 瀬沼 武秀					
		富革市新富20-1 新日本製鐵株式会社技					
		術開発本部内					
		(74)代理人 弁理士 田中 久裔					
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·							

#### (54) 【発明の名称】 板厚均一性に優れた深較り用熱延鋼板の製造方法

#### (57)【要約】

【課題】 板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板の製造 方法を提供する。

【解決手段】 C:0.01%以下、Ti:0.001  $\sim 0.2%$ 、 $Nb:0.001\sim 0.2%$ の一種または 二種を含む鋼の鋳片を熱間圧延する際、仕上圧延の少なくとも1パスを、中心線平均粗さ $Ram0.05\mu m$ 以上のワークロールを用いて、40 Cの粘度が $450mm^2$ /s 未満の粘性を有する潤滑油を、ウォーター・インジェクション方式により、その油量を $0.2\sim 10m1$ / $m^2$  に調整して、ロールに供給する潤滑を施しなが 6、 $Ar_3$  変態点未満の温度域で圧延し、かつ、該温度域、該潤滑条件下の圧延の圧延率の合計が50%以上となるように行い、その後、巻き取り工程、または、焼鈍工程において再結晶処理を施す。



1

#### 【特許請求の範囲】

【請求項1】 質量%で、C : 0.01%以下、S i:2.0%以下、Mn:3.0%以下、P:0.2 %以下、S : 0. 05%以下、A1:0. 005%以 上、0.1%以下、N : 0.01%以下を含有し、か つ、Ti:0.001%以上、0.2%以下、および、 Nb: 0.001%以上、0.2%以下の一種または二 種を含み、残部がFeおよび不可避不純物から成る鋼の 鋳片を熱間圧延する際、仕上圧延の少なくとも1パス を、中心線平均粗さRαが0.05μm以上のワークロ 10 ールを用いて、40℃の粘度が450mm²/s未満の 粘性を有する潤滑油を、ウォーター・インジェクション 方式により0.2~10m1/m'の割合でロールに供 給する潤滑を施しながら、Arg変態点未満の温度域で 圧延し、かつ、該温度域、該潤滑条件下の圧延の圧延率 の合計が50%以上となるように行い、その後、巻き取 り工程、または、焼鈍工程において再結晶処理を施すと とを特徴とする、板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板 の製造方法。

【請求項2】 鋼が、さらに、質量%で、B : 0.0 20 001%以上、0.005%以下を含有することを特徴 とする、請求項1に記載の板厚均一性に優れた深絞り用 熱延鋼板の製造方法。

【請求項3】 鋼が、さらに、質量%で、Cu:0.0 1%以上、1.5%以下を含有することを特徴とする、 請求項1または請求項2に記載の板厚均一性に優れた深 絞り用熱延鋼板の製造方法。

【請求項4】 再結晶処理を溶融亜鉛めっき工程にて行 うことを特徴とする、請求項1ないし請求項3のいずれ か1項に記載の板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板の 30 製造方法。

#### 【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、特に、電気製品や 自動車などの工業製品の製造分野において有用となり得 る、板厚均一性に優れた深絞り用熱延鋼板の製造方法に 関するものである。

[0002]

【従来の技術】電気製品や自動車などの工業製品には、 深絞り加工された鋼板が広く用いられている。そして、 こうした用途に用いられる鋼板には、高いランクフォー ド値(平均 r 値、以下単に「r 値」と記す)が求められ ることが知られている。高い r 値を有する鋼板は、一般 的には、鋼片を加熱後、Ar<sub>3</sub>変態点以上の温度域で圧 延し、更に冷間圧延と再結晶焼鈍を行う方法によって製 造されている。

【0003】しかし、近年、より安価に、こうした高r 値を有する鋼板を得ることを目的に、Arj変態点以下 の温度域で、潤滑を施しながら熱間圧延を行い、従来工 程における冷間圧延と再結晶焼鈍を省略する製造方法が 50 板厚の不均一さも増大し、それが深絞り成形後の製品形

提案されている。

【0004】例えば、特開昭59-226149号公報 には、所定の化学成分を有する鋼を、500℃以上Ar ,変態点以下の温度範囲で、潤滑を施しつつ合計圧下率 が50%以上の圧延を行い、その後の冷却、捲取あるい は焼鈍過程において再結晶させることにより成形性のす ぐれた熱延鋼板を得る発明が開示されている。また、特 開昭61-3845号公報には、C≦0.2重量%の炭 素鋼をAr,+100℃以下、Ar,以上の温度域で、合 計圧下率が少なくとも35%以上の圧延を行った後、摩 擦係数μが0.2以下の条件で合計圧延率が50%以上 の圧延を行い、その後再結晶処理を行うことにより深絞 り性にすぐれた鋼板を得る発明が提案されている。

【0005】しかるに、前者には、単に潤滑を施しつつ 圧延を行うとの記載があるのみで、実際の鋼板製造に欠 かせない具体的な潤滑の実施方法が示されていない。ま た、後者には、摩擦係数を0.2以下にする圧延方法と して、大径ロールの使用、低温・高速・軽圧下圧延、バ ス間冷却などの対策が効果的であるとの開示があるが、 こうした対策は、従来の圧延設備の変更や、生産性の低 下を伴うものであるから、却って製造コストの上昇を招 き、冷間圧延と再結晶焼鈍工程を省略したことによる経 済的な効果が減じられてしまう恐れがある。また潤滑剤

に関する記載は全く見当たらない。

【0006】一方、特開平4-263022号公報に は、所定の化学成分を有する鋼を、Ar<sub>1</sub>変態点未満5 00℃以上の温度域で、少なくとも1パスをグリース基 潤滑剤を0.25~5.0g/m<sup>2</sup>ロールに塗布する潤 滑条件の下で、かつ、Ar<sub>1</sub>変態点未満の全圧下率が6 0%以上の仕上げ圧延を行った後、巻取工程またはその 後の焼鈍工程において再結晶処理する深絞り性に優れた 熱延鋼板の製造方法が示され、潤滑剤に関する具体的な 記載がなされている。しかし、グリース基の潤滑剤を用 いるためには、やはり圧延設備の変更が必須であり、製 造コストの上昇は必然的であると言える。

[0007]

【発明が解決しようとする課題】このように、従来の製 造方法の内の冷間圧延と再結晶焼鈍工程を省略して安価 な製造コストとしながらも、高い Γ 値を有する熱延鋼板 40 が得られるとする提案には、最も重要な技術要素である 潤滑方法に関する記載が全くないか、あっても設備や生 産性に影響を与えるものであり、より安価に、深絞り性 に優れた鋼板の提供を可能にするという社会的要請に十 分応え得ているとは言い難い。

【0008】また、より髙品位な鋼板に対する需要が高 まっている状況下において、熱延鋼板を冷延鋼板に換え て用いるためには、r値の高さのみではなく、冷延鋼板 と同等の板厚の均一性も求められる。一般に、潤滑を施 しながら熱延を行うと、通板制御の困難さが増すため、

状にも影響を与える懸念が持たれていた。従って、板厚の均一性を損なわないような潤滑圧延としなければならないが、そうした視点にまで踏み込んで熱延鋼板の製造方法を検討した例は見当たらない。

【0009】そこで、本発明は、まず、従来の熱間圧延設備と生産性を犠牲にすることなく、従って、冷間圧延と再結晶焼鈍工程を省略したことによる製造コストの低減効果を減じることなく、高い r 値を有し、併せて、冷延鋼板並みの板厚均一性をも備えた熱延鋼板を製造する方法を提供することを目的とするものである。

#### [0010]

【課題を解決するための手段】本発明は、そうした目的 のためになされたものであり、C:0.01%以下、S i:2.0%以下、Mn:3.0%以下、P:0.2% 以下、S:0.05%以下、A1:0.005%以上、 0.1%以下、および、N:0.01%以下を含有し、 かつ、Ti:0.001%以上、0.2%以下、およ び、Nb:0.001%以上、0.2%以下、の一種ま たは二種を含み、残部がFe、および、不可避不純物か ら成る鋼の鋳片を熱間圧延する際、仕上圧延の少なくと 20 も1パスを、中心線平均粗さRaが0.05 μm以上の ワークロールを用いて、40℃の粘度が450mm³/ s未満の粘性を有する潤滑油を、ウォーター・インジェ クション方式により、その油量を0.2~10ml/m <sup>1</sup>に調整して、ロールに供給する潤滑を施しながら、A r,変態点未満の温度域で圧延し、かつ、該温度域、該 潤滑条件下の圧延の圧延率の合計が50%以上となるよ うに行い、その後、巻き取り工程、または、焼鈍工程に おいて再結晶処理を施すことを特徴とする、板厚均一性 に優れた深絞り用熱延鋼板の製造方法を要旨とするもの 30 である。

【0011】また、上記の化学成分に加えて、0.0001%以上、0.005%以下のBを二次加工脆性の改善の目的で、更に、0.01%以上、1.5%以下のCuを高強度化の目的で必要に応じて含有させた鋼板の製造方法、および、再結晶処理を溶融亜鉛めっき工程にて行うこととした当該製造方法も要旨とするものである。【0012】

【発明の実施の形態】本発明者らの調査によれば、一般的な熱間圧延機にはウォーター・インジェクション方式 40の潤滑剤供給装置が装備されていることが多い。本発明において、用いる潤滑媒体を液体とし、その供給をウォーター・インジェクション方式としたのは、そうした設備をそのまま使用し、特別に設備改造をすることなく本発明で提案する製造方法を実行可能なものとするためである。

【0013】また、望ましい鋼板の化学成分や圧延条件、および、潤滑剤の条件などは以下の実験結果に基づいて限定した。実験は、図2に模式的に示す潤滑剤の供給装置と圧延装置を用いて行った。

【0014】圧延実験に先立って、まず潤滑油の粘度について検討した。潤滑油、および、キャリア水の温度を40℃とし、様々な粘度を有する潤滑油を用いてロールに潤滑剤を連続して噴射し濃度の安定性を調べる実験を行った。潤滑剤の噴射開始後5分毎に10回、各々100mlをノズル直近で採取して濃度を分析し、10回全てにおいてその変動範囲が設定した濃度の100分の5未満であれば合格として安定性を評価した。その結果、粘度が450mm²/s未満の潤滑油であれば潤滑油の10種類によらず濃度の安定性は合格となった。本発明で、用いる潤滑油の粘度を450mm²/s未満としたのは、このように潤滑圧延を安定して行えるものとするためである。なお、粘度の値は、油脂の粘度の表記に汎用

【0015】次に、C:0.0025%、Si:0.01%、Mn:0.10%、P:0.012%、S:0.0095%、Al:0.035%、N:0.0017%、および、Ti:0.062%を含み、残部がFe、および、不可避不純物から成る鋼片を、加熱後、750℃で圧延し、引き続いて、750℃、3時間の再結晶処理をする実験を行った。圧延は、1パスで60%圧延するスケジュールとし、その際に使用するワークロールの表面粗さ、噴射する潤滑剤中の油の濃度、および、全供給量を変えることにより、ロールの表面粗さと潤滑剤の条件が板厚均一性、および、鋼板 r 値に及ぼす影響を調査した。

的に使用されている40℃の値とした。

【0016】板厚の均一性は、鋼板2500mm<sup>3</sup>に付き一ヶ所の割合で20ヶ所の板厚を測定し、それらの最大値と最小値の差 $\Delta$ tをそれらの平均値で除した値が、0.125未満であれば「良」、0.125以上であれば「不良」と判定した。

【0017】その結果を、図1に示す。との図から、被圧延材の単位面積当たりに供給される油量が0.2m1/m\*以上、10m1/m\*以下であり、かつ、中心線平均粗さRaが0.05 $\mu$ m以上の場合に、高いr値を有し、かつ、板厚均一性が「良」の鋼板の得られることが明らかとなった。

【0018】とうした実験結果に基づき、更に鋭意検討を行って本発明を限定した。

0 【0019】まず、鋼板の化学成分について述べる。 【0020】Cは、深絞り性と密接に関わる元素であり、0.01%を超えると深絞り性を劣化させるので、その上限を0.01%とする。

【0021】Si、Mn、および、Pは各々鋼を高強度化する作用を有し、製造しようとする鋼の強度に応じて必要量を添加すればよいが、それぞれ、Si>2.0%、Mn>3.0%、および、P>0.2%となると深絞り性を劣化させるので、Si:2.0%以下、Mn:3.0%以下、P:0.2%以下と上限を限定した。50【0022】Sは、少ない程深絞り性には有利である

5

が、0.05%以下であれば特段問題とならないので 0.05%を上限とする。

【0023】A1は、鋼の脱酸、脱窒を目的に添加するものであるが、含有量が0.005%未満ではその効果が得られず、また、0.1%を超えて含有させると延性の劣化をもたらすので、0.005%以上、0.1%以下とする。

【0024】Nは、窒化物の生成や固溶量の増加にともない延性を劣化させるので、0.01%以下としなければならない。

【0025】Tiは、固溶C、および、固溶Nを低減させる働きを有し、r値を高めるのに非常に有効な元素である。しかし、0.001%未満では効果がなく、一方、0.2%を超えて含有させてもそれ以上の効果は得られず、鋼のコストを高めてしまう。そのため、含有量を0.001%以上0.2%以下とした。

【0026】Nbは、固溶Cを低減させ、また、仕上げ 圧延前の結晶粒径を微細化する働きをするので r 値を高 めるのに有効であるが、0.001%未満では効果がな く、0.2%を超えて含有させてもそれ以上の効果は期 20 待できないので、含有量を0.001%以上、0.2% 以下とする。

【0027】Bは、二次加工脆性を改善する効果を有するので、必要に応じて添加することができる。しかし、0.001%未満では効果が得られず、逆に0.005%を超えると深絞り性に悪影響を及ぼすので、含有量は、0.0001%以上、0.005%以下とする。【0028】Cuは、銅を高強度化する作用を有するので、必要に応じて添加することができる。その効果は、0.01%以上の添加で得られるが、1.5%を超える30と深絞り性を劣化させるので、含有量は0.01%以上、1.5%以下とする次に、圧延条件、および、潤滑条件について述べる。

【0029】熱延鋼板の r 値を高めるには、圧延と再結晶処理工程を利用して集合組織制御を行い、板面に平行な {111}面を高く集積させる方法が有効である。そのためには、圧延を A r ,変態点未満の温度域において行う必要がある。なぜなら、 A r ,変態点以上の温度域における圧延によって形成される集合組織は、その後の r 相から α 相への相変態の際にランダム化してしまうた 40 め、望ましい集合組織の形成には有効ではないからである。本発明において、圧延温度域を A r ,変態点未満としたのはこのためである。一方、圧延温度域の下限は、高 r 値鋼板を得る目的からは存在しないが、温度の低下とともに鋼の変形抵抗が増加して圧延機の負荷を増大させるため、500℃を下限とするのが望ましい。

【0030】圧延時に潤滑を施こさないと、圧延ロールと被圧延材の間の摩擦に起因する剪断変形により、被圧延材の、特に表層部に、深絞り性に好ましくない、板面に平行な{110}面が形成されてしまうため、潤滑の50

実施は不可欠である。なおかつ、既述の実験結果が示すように、使用する潤滑剤の制御のみならず、どのような表面粗さのワークロールを用いるかも非常に重要である。

【0031】圧延時にワークロールに対してウォーター ・インジェクション方式で供給された潤滑剤中の油分 は、ロール表面に油膜を形成するので、それによって圧 延ロールと被圧延材の間に摩擦に起因する剪断変形が抑 制されるものと考えられる。こうしたメカニズムによれ ば、潤滑剤中の潤滑油の濃度と潤滑剤の供給量の積によ 10 って定まる油量が所定量以上必要であること、および、 油分をその表面に保持できる程度のロールの表面粗さも 必要であることが推定される。詳細な検討の結果、それ らは各々、油量が0.2m1/m²以上、ロールの中心 線平均粗さRa(以下、単にRaともいう)が0.05 μm以上であり、両者が共に満たされた場合に高r値鋼 板の得られることがわかった。被圧延材の単位面積当た りの油量を0.2ml/m<sup>2</sup>以上、Raを0.05μm 以上に限定したのはこうしたためである。なお、Ra は、JIS B 0610の規定に基づき、ロールの幅 方向の中央部分を全周に渡って測定した値を採用した。 【0032】一方、油量が多すぎる場合には、高 r 値鋼 板を得る目的上は問題ないものの、被圧延材の通板制御 がより難儀になるため、圧延後の鋼板の形状に悪影響が 発生するようになる。具体的には、油量が10m1/m 'を超えて供給されると板厚の均一性が不良となる。そ とで、油量を10m1/m'以下に限定した。

【0033】また、Rao上限は、高r値鋼板を得る目的上はないものの、表面疵の発生など、鋼板の表面性状を損ねる恐れがあるので、 $1\mu$ m以下とするのが望ましい。

【0034】なお、潤滑油の成分は、特に限定しない。 鉱油や合成エステルの他に各種化合物やポリマーなどを 添加した潤滑油を用いることも本発明の要旨を損ねるも のではない。

【0035】Ar,変態点未満の温度域での圧延率の合計を50%以上としたのは、これより少なくては、板面に平行な(111)面が、高r値を得るのに十分な程に集積しないからである。

【0036】次に、再結晶処理工程について述べる。 【0037】圧延直後の鋼板は、加工組織を呈しているので、加工性を付与するために、さらには、深絞り性に 有利な再結晶集合組織を形成するために、再結晶処理を 行う必要がある。それは、鋼板をコイルに巻き取ること による自己焼鈍法で行ってもよいし、箱型焼鈍炉、ある いは連続焼鈍炉を用いて行ってもよい。また、それらに 換えて、溶融亜鉛めっき工程において行うこともでき

[0038]

【実施例】本発明の実施例を比較例と共に説明する。

【0039】試験に用いた鋼片の化学組成を表1に示 す。

【0040】鋼板の製造は、表1に示す鋼片を、加熱 し、粗圧延した後、ウォーター・インジェクション方式 で潤滑剤をロールに供給しながら仕上げ圧延を行った。 その際の使用したロールのRaと潤滑条件、および、再 結晶処理後の鋼板の板厚均一性の判定結果と r 値を表 2 に示す。また、とれらの表には、本発明の範囲外となる 比較例を併せて記載した。

【0041】表1において、銅A~Hは、本発明の範囲 10 延鋼板は、優れた板厚均一性と深絞り性を有することが 内の鋼であるが、鋼IはTi、Nbを含有しておらず、 また鋼JはC含有量が0.01%を超えており本発明の 範囲外の鋼である。

\*【0042】表2においての比較例No. 2は、Ar, 変態点未満の温度域での圧下率の合計が50%以上とな っていない圧延条件の例であり、比較例No. 4、N o. 7及びNo. 15は油量 (m 1/m<sup>2</sup>) が多過ぎる 例であり、そして比較例No. 16及びNo. 17は本 発明の範囲外の化学成分の鋼についての例である。 【0043】これらの比較例は、いずれも板厚の均一性 評価或はr値が本発明の実施例よりも劣っていた。

【0044】とのように、本発明の範囲内で製造した熱 わかった。

[0045]

【表1】

_										U	assa,	<u>,                                     </u>
鎶	С	Si	Min	P	S	A1	N	Ti	Nb	В	Cu	
Α	0.0020	0. 01	0. 25	0.010	0.005	0.045	0.001	0.040	0.011	-	-	
В	0.0020	0.01	0. 20	0.010	0.005	0.051	0.002	0.065	-	-	~	
С	0.0022	0. 01	0. 18	0.012	0.006	0.044	0.001	-	0. 036	_	-	
D	0.0021	0.01	0. 15	0.011	0.004	0.051	0.002	0.051	0.009	0.0004	-	
E	0.0020	1.05	1. 20	0.036	0.006	0.054	0.002	0.050	0.011	0.0030	-	
F	0.0026	1.51	2.00	0. 055	0.007	0.063	0. 001	-	0.030	0.0018	-	
G	0.0022	0.01	0.14	0.009	0.005	0.058	0. 001	0.060	-	0.0008	0.3	
Н	0.0030	1.48	2.06	0. 080	0.005	0.064	0. 001		0.037	0.0022	0. 9	
	0.0025	0.01	0.19	0.014	0.008	0. 039	0. 001	-	-	-	-	比較例
J	0.0240	0. 01	0. 24	0. 012	0. 024	0. 034	0.002	0.054	-	-	-	比較例

#### [0046]

※ ※【表2】

No.	鋼	Ar,変態点以下	油量	Ra	板厚	r值	
		の温度域での	(m1/m²)	(MPa)	均一性	1	
		圧延率(%)			評価		
1	A	70	1.0	0. 1	良	1. 64	
2	Α	40	1. 0	0. 1	良	1. 20	比較例
3	В	70	0.5	0. 1	良	1. 56	
4	В	70	11.0	0. 1	不良	1. 61	比較例
5	O	70	0. 25	0.06	良	1. 58	
6	C	70	0. 2	0. 3	・良	1.56	
7	C	90	11.0	0.6	不良	1. 58	比較例
8	D	70	9. 0	0. 2	良	1. 64	
9	D	70	6. 0	0. 05	良	1. 63	
10	E	70	2. 0	0. 9	良	1. 57	
11	F	70	0. 25	0. 9	良	1. 51	
12	G	70	9. 0	0. 9	良	1. 60	
13	Н	70	2. 0	0. 5	良	1. 54	
14	H	70	2. 0	0. 2	良	1. 64	
15	Н	70	11.0	1. 1	不良	1. 50	比較例
16	I	70	1.0	0. 2	良	1. 19	比較例
17	1	70	1.0	0. 2	良	1.11	比較例

#### [0047]

【発明の効果】本発明の製造方法を用いれば、板厚均一 性に優れ、かつ、高r値を有する熱延鋼板を得ることが できる。また、そのために新たに潤滑装置を設置したり する必要がなく、冷延・焼鈍工程を省略した効果を減じ ることもない。

【図面の簡単な説明】

【図1】鋼板の板厚均一性、および、 r 値に及ぼす潤滑 剤中の油量、および、ロール表面の中心線平均粗さRa の影響を示すグラフである。

【図2】潤滑剤の供給装置と圧延装置を示す模式図であ

【符号の説明】

50 1 圧延ロール

- 2 被圧延材
- 3 噴射ノズル
- 4 流量計
- 5 定量ポンプ

\*6 オリフィス

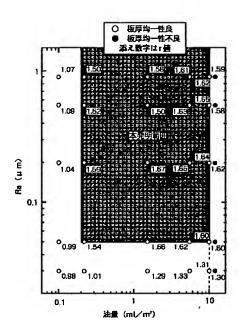
7 潤滑油タンク

8 キャリア水タンク

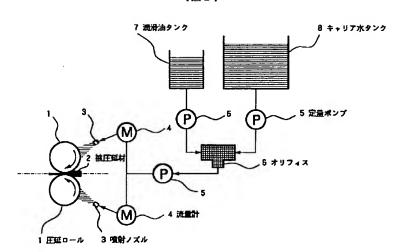
\*

【図1】

9



【図2】



# This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☐ BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
☐ FADED TEXT OR DRAWING
BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

## IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.